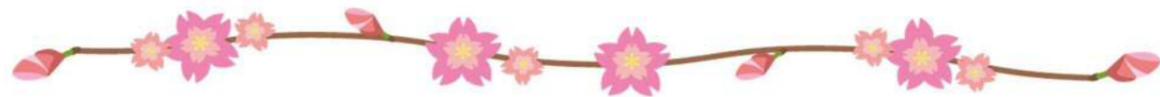




## 令和7年度 社会福祉法人つどいの家 後援会総会開催のお知らせ

今年度も後援会の活動にご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございました。  
下記の日程で令和6年度後援会総会を開催いたします

日時： 令和7年 4月23日(水) 10:30-12:00  
場所： 太白区中央市民センター 2階 大会議室 (仙台市太白区長町5丁目3-2)  
議題： 令和6年度事業報告、決算報告、監査報告  
令和7年度事業計画・予算(案)・役員(案) 等



### ❀つどいの家後援会会員募集❀

#### ～ 後援会の目的 ～

しょうがい者の福祉や社会福祉法人つどいの家の基本理念に対する社会の関心や理解を広げ、法人の運営する事業所及び事業を支援すること

つどいの家では施設整備をはじめとするサービスの充実を図るため、より一層の資金を必要としています。  
つどいの家を支える後援会の活動にご賛同ご協力をお願いいたします。

- 入会の申し込み: 「つどいの家・アプリ」までお電話でお申し込みください(022-743-1882)
- 年会費
  - ・運営会員 3,000円 \*議決権あり
  - ・賛助会員(個人) 3,000円以上 \*議決権なし
  - ・賛助会員(団体) 10,000円以上 \*議決権なし
  - ・協力会員(募金箱設置やポスティング等の協力)

編集者: 「社会福祉法人つどいの家」後援会 会長 針持 哲郎  
 〒984-0838 仙台市若林区上飯田1丁目17-58 (つどいの家・コペル)  
 TEL 022-781-1571 FAX 022-781-1573  
 発行者: 東北障害者団体定期刊行物協会  
 〒980-0874 仙台市青葉区角五郎1丁目-12-6 頒価/100円(後援会の会費を充てています)

# TSK 「社会福祉法人つどいの家」

## 後援会だより ~第107号~



### ガイドヘルパー養成講座

講座受講を経て  
移動支援デビュー!



## 利用者さんと、様々な活動・事業の場で、 学生のみなさんも活躍しています!



ボランティア活動 ちょこ・活  
オリジナルチョコ作り活動のひとコマ

### 日中一時支援・短期入所

ソファでゆったりお話中のひとコマ



# ソーシャルワーク実習 報告



令和7年1月14日～23日(8日間)に東北福祉大学より、ぴぼっと支倉にて学生1名が実習を行いました。ぴぼっと支倉では、約10年ぶりの実習生です! 実習の感想を書きいただきました。

ぴぼっと支倉でソーシャルワーク実習(社会福祉士)を行いました。緊張もありましたが、福祉の現場で学ぶことができるというワクワクする気持ちも抱きながら初日を迎えました。職員の方に優しく迎え入れていただき、私も同じように、初めて会った時に安心を与えられる人になりたいと思いました。

相談支援事業は、しょうがいのある方やそのご家族などからの様々な相談に応じる仕事です。実習中は法人内の施設を見学したり、利用者のモニタリングへ同行したりしました。利用者にはそれぞれの思いやニーズがあり、個別性を尊重した支援が求められます。利用者が自分らしく生き生きと生活するために、地域にある各サービスの特徴や強みを理解すること、利用者の話を聞き、意思を確認し、ともに考えていくことが大切であると学びました。利用者との信頼関係の形成や支援ネットワークの形成、及びチームアプローチの展開などのソーシャルワークの実践に触れ、とても貴重な経験となりました。

(東北福祉大学 矢ノ目朱里)



**NEW**

## 新事業の名称募集結果



令和2～3年度に「後援会の今後の在り方検討委員会」の議論をとおして、後援会の目的として「障害者の福祉や法人つどいの家の基本理念に対する社会の関心や理解を広げる」ことが規約に付け加えられました。そこから「後援会活動をより多くの運営会員に参画してもらえよう、小規模でもいいので運営会員が主体となった活動を事業化すること」を趣旨として新事業が発足しました。

(仮称)新事業として始まって2年が経過したところで名称を募集したところ9件の応募(保護者会員4件、職員会員5件)があり、2月の役員会で出席役員による投票の結果正式にその名称が決まりました。

### 新名称 運営会員活動助成事業 『きゃっちぼーる』

この「きゃっちぼーる」という名称については、後援会を通して障がい者と地域の人と思いやったり、笑い合ったり、理解を深める心のキャッチボールのような交流ができることを願う【提案者:小田中しおりさん】の気持ちが込められています。

これから、どんな「新たな活動」や「会員個々の活動」といったワクワクする企画が生まれていくか。そんな期待を膨らませつつ、今後とも「きゃっちぼーる」をよろしく願います。(事務局長 鈴木恵雅)

## 連載 きいて きいて 第9回 ～社会とのかかわりの中で～



### 「タンポポのお土産」



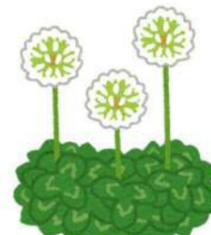
私達の娘は51歳。相変わらず夢見る童女です。毎朝の作業所への通所をととても楽しみにしています。朝、私が身支度・戸締りをしている少しの間、玄関で、家の前を通る人に「こんにちは」と声を掛けてることがよくあります。びっくりして通り過ぎる人、怪訝な顔をする人、その中に「おはよう～」と大きな声で応えて下さる人がいます。

とても嬉しいです。地域との関わりは、拒否されている事は無く、また、歓迎されている訳でも無い自然体、私達には、これが一番住み易いです。

でも、災害が発生したらどうなるか、不安です。時々、そんなことを考える事があります。先日、火災が発生した家屋のベランダから避難する様子をテレビのニュースで観ました。とても心配になり、避難用ロープを購入しました。付け方の説明書を見ながら、このロープを付けて二階から降りることが出来るのか……。無理な気がします。災害時の避難所の様子をテレビのニュースで観る事がありますが、娘はあそこには居られないと思います。やはり私達、後期高齢者ですが、車は手放せません。不安は尽きませんが、色々考えても、仕方ないです。とりあえず火の用心。運を天に任せてでしょうか。

作業所でのお散歩タイムに“タンポポ、シロツメクサ、マーガレット”等、道端に咲く花を摘んできます。秋には、“ドングリ、マツカサ、紅葉したモミジ”、職員の方が小さい花束にして下さいます。帰宅すると、最初に「ママ、おみやげだよ」と手渡してくれます。食卓に飾られた小さな花達が季節の移ろいを教えてくれます。

娘のお陰で、私達は心穏やかな日々が送れています。



(すてっぶ・はうす 利用者家族 川添 喜久子)